

令和5年度 学習分析事業 改善計画 三原市立糸崎小学校

1. 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	前年度結果 偏差値平均	/	48	52.2	52.7	53.7	51
	本年度結果 偏差値平均	52.6	50.9	50.1	50.9	55.6	52.1
算数	前年度結果 偏差値平均	/	50	51.4	50	53.6	51.6
	本年度結果 偏差値平均	51.3	48.8	47	49.5	52.1	49.8
理科	前年度結果 偏差値平均	/	/	/	50.3	52.7	51.6
	本年度結果 偏差値平均	/	/	44	50.1	54.8	50.2
全体	前年度結果 偏差値平均	/	49.3	51.8	51	53.3	51.2
	本年度結果 偏差値平均	52	49.9	47.1	50.2	54.1	50.8

②学習環境分析 Q-U 【1回目】

		1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
一次支援	人数(人)							
	割合(%)							
二次支援	人数(人)							
	割合(%)							
三次支援	人数(人)							
	割合(%)							
学習意欲	学年(点)							
	全国(点)							

③全国学力・学習状況調査 正答率平均

教科	国語	算数
前年度結果 (対県比)	66 (98)	63 (98)
本年度結果 (対県比)	81 (117)	72 (113)

④学習環境分析 Q-U 【2回目】

		1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
一次支援	人数(人)							
	割合(%)							
二次支援	人数(人)							
	割合(%)							
三次支援	人数(人)							
	割合(%)							
学習意欲	学年(点)							
	全国(点)							

2. 調査から明らかになった課題

<p>【年度当初の学力について】(NRTをうけて)</p> <p>●2年生の国語では、読み返してよいところを見つける(全国50.8%に対し本校47.7%)、文や文章を正しく書く(全国74.0%に対し本校73.9%)に課題がある。算数では、時刻の読み方(全国73.3%に対し本校72.7%)、絵や図を用いた数量の表現(全国64.4%に対し本校63.6%)に課題がある。</p> <p>●3年生の国語では、読み返してよいところを見つける(53.6%)、重要な語や人物の行動をとらえる(63.7%)に課題がある。算数では、長さ・かさ(58.2%)、時間の単位(64.4%)、表やグラフ(47.7%)に課題がある。理科では、「物の性質と働き」で、物の置き方と重さの関係(52%)に課題がある。</p> <p>●4年生の国語科では、漢字の「へんやつくりの理解」(67%)に、説明文では、段落ごとの内容を把握すること(43%)に課題がある。算数科では、「測定・データの活用」で、およその重さを推測すること(57%)、2つの棒グラフの比較(57%)に課題がある。</p> <p>●5・6年生は、算数のデータの活用で課題がある。</p>	<p>【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <p>●思考・判断・表現において「書くこと」の正答率が33.3%と低い。</p> <p>●誤答としては、カード④からわかることを書き忘れている児童が多かった。</p> <p>●図形に課題がある。「テープを直線で切ってできた面積の大小のわけを書く」の正答率が18.5%と低い。</p>
<p>【学級・学年集団について】(1回目のQ-Uをうけて)</p>	<p>【学級・学年集団について】(2回目のQ-Uをうけて)</p>

3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

(※毎月のブロック訪問や授業研で参観させていただきます。また、重点取組は、第2回の指導力向上研修において事例として別紙にまとめ紹介させていただきます。)

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</p> <p>○全教諭が「必然性のある問いの設定」を意識し、ファミリーテートする授業を実施できるようにするために、授業の視点を明確にして指導案検討、事後協議を行い、授業力の向上を目指す。</p> <p>○学習内容が深い学びに至っていたかどうかを振り返り、改善に努めるために、全教諭が年間一人二本授業提案を行う。</p> <p>○毎学期に学習アンケートを実施することにより、個の実態を把握し、授業改善、個の支援に努める。</p>	<p>①NRTの誤答分析による各学年、学校全体の実態把握と改善計画の立案、各学年の児童実態を把握し、今後の各学年の指導方針を共有する。</p> <p>②学校経営会議・校内研修において研究を見直し、全教職員でRPDCAサイクルに則って改善を行う。</p> <p>③目指す授業(糸小モデル、深い学び)の在り方を共有するために外部講師を招いた校内研修の実施を行う。</p> <p>④一人一授業の提案</p> <p>⑤全国学力・学習状況調査の全児童の誤答分析・実態把握を全教職員で行い、各学年においてどのような身をつけさせる必要があるか共有し、授業改善に努める。</p> <p>⑥校内研修において、学年実態を共有し、改善に向けて全教職員で取り組む。</p> <p>⑦モジュールでのアシストシート等を活用した学力補充。</p> <p>⑧次年度に向けた全国学力・学習状況調査の対策。</p>	<p>①6月(校内研修)</p> <p>②7月～8月(校内研修)</p> <p>③8月(校内研修)</p> <p>④6月～2月(授業提案)</p> <p>⑤8月(校内研修)</p> <p>⑥8月～10月(校内研修)</p> <p>⑦6月～3月(各学級)</p> <p>⑧2月～3月(学級・5年生)</p>	<p>・Q-U2回目の学習意欲の数値(全学級で全国比以上)</p> <p>・単元末テスト(全学級80点以上の児童80%)</p> <p>・学習アンケート(80%以上)</p>
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <p>○児童が安心して学校や集団で過ごすことができるようにするために、学習規律や教室環境(整備)を児童とともに考えたり見直したりする機会を設ける。</p> <p>○児童自身が学級や学級集団の中に居場所を実感できるようにするために、全学級において当番活動や係活動など一人一人の役割を明確化した取組を行う。</p> <p>○学校全体で回復力の向上に努めるために、回復力向上をねらった授業づくりや学校行事、特別活動等の取組について全教職員で共有・実施する。</p>	<p>①Q-Uの分析における実態把握と改善計画の共有。</p> <p>②校内研修において各学級の実態把握と実態を基にした個の支援方法を共有し、全教職員で取り組む。</p> <p>③研究授業においてレジリエンス(回復力)が向上することを意識した授業の実施。</p> <p>④休憩時間を利用した学級での全員遊びを実施することで、一人一人をお互いがクラスの仲間として大事にし合う学級集団を目指す。</p> <p>⑤糸小ギネスをクラス全体で取り組むことで回復力の向上に努める。</p>	<p>①6月(校内研修)</p> <p>②6月(学校経営会議)</p> <p>③6月～2月(一人一授業提案)</p> <p>④4月～3月毎週(各学級)</p> <p>⑤9月(各学級)</p>	<p>・2回目のQ-Uにおける一次支援数値向上(全学級で1回目以上)</p> <p>・「自分のことアンケート」における肯定的評価85%以上</p> <p>・レジリエンスアンケートによる心の面からの児童の実態把握</p>

4. 課題解決に向けた重点取組を振り返って

【今年度の成果と次年度にむけた改善点】

○今年度は、学習の面からだけでなく、心の面からの「回復力」の育成を目指した取組や研修を2学期から継続的に行うことにより、3次支援の必要な児童を減らすことができた。

○学習意欲については、全国比よりも低い学級が3学級あったが、本校独自の自分のことアンケートの1月の結果では、「考えることがおもしろい」と肯定的に評価した児童は90%であり、学ぶことがおもしろいと感じている児童が増えていることが分かる。

●学力調査や学期末テストの結果等を踏まえ、学力差が個によっても、学年によっても大きいので、児童同士の学び合いを取り入れながら取りこぼしのないようにする。

5. 次年度学力調査の目標値

学力定着分析 NRT 偏差値平均		新2年	新3年	新4年	新5年	新6年	全体
国語	目標値 偏差値平均	53	53	51	51	51	53
算数	目標値 偏差値平均	52	52	49	48	50	50
理科	目標値 偏差値平均	/	/	45	45	51	51
全体	目標値 偏差値平均	53	53	50	48	51	51

全国学力・学習状況調査 正答率平均

教科	国語	算数
目標値 (対県比)	67	67